

— The 10th RIHN Forum —

第10回 地球研フォーラム

# 足もとの水を見つめなおす

2011.7.3 [SUN]

13:30-17:00 / 12:30開場 **入場無料**

国立京都国際会館 Room D

(京都市左京区宝ヶ池 地下鉄烏丸線 国際会館駅下車)

地球は水の惑星といわれるように、私たちと水は切っても切れない関係にあります。人体の70パーセントは水であり、産業・飲料・衛生、さらに生物多様性の維持のために、水はなくてはならない資源です。しかし、水は単なる資源以上の存在でもあります。このたびの東日本大震災で多くの人の命が奪われましたが、水はときには自然の恐ろしさを代表するものといえましょう。ひとびとは、自然の恵みであり、同時に恐ろしいものでもある水とどのように向き合ってきたのでしょうか。本フォーラムでは、私たちの生活と深く関わってきた「足もとの水」を、文化のまなざしから見つめ直し、水にまつわる環境の問題を、ともに考えたいと思います。

## 1 限られた水と多すぎる水

窪田順平 ●総合地球環境学研究所 准教授

## 2 水との関わりをとりもどす： 「うおの会」の活動を通じて

中島経夫 ●総合地球環境学研究所 客員教授、琵琶湖博物館 名誉学芸員

## 3 水は何をきれいにするのか？： 怪異譚にみる水と心

高岡弘幸 ●福岡大学 教授

## 4 水の記憶とその表現

村松 伸 ●総合地球環境学研究所 教授、東京大学生産技術研究所 教授

## 5 インドネシアの水と民俗知

MEUTIA, Ami Aminah ●総合地球環境学研究所 研究員

### パネルディスカッション

[司会] 内山純蔵 ●総合地球環境学研究所 准教授

阿部健一 ●総合地球環境学研究所 教授

総合地球環境学研究所  
[RIHN]

連絡先(地球研)  
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457-4  
Tel:075-707-2492 Fax:075-707-2510  
<http://www.chikyu.ac.jp/>

—— 総合地球環境学研究所は創立10周年を迎えました。 ——



# 足もとの水を見つめなおす

● 開会挨拶

立本成文 (たちもと・なりふみ) / 総合地球環境学研究所 所長

● 趣旨説明



内山純蔵  
(うちやま・じゅんぞう)

総合地球環境学研究所准教授。縄文遺跡から出土する動物骨の分析を通じて、先史時代の人間と環境との関わり、景観の歴史的な変遷の解明を行ってきた。現在は地球研プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」のリーダーを務め、過去1万年にわたる東アジア海岸部の景観のなりたちと保全の研究に取り組んでいる。

● 講演

1



## 限られた水と多すぎる水

窪田順平  
(くぼた・じゅんぺい)

総合地球環境学研究所准教授。専門は水文学、特に水循環における森林の役割や、乾燥地の水問題に興味を持つ。地球研プロジェクト「民族/国家の交錯と生業変化を軸とした環境史の解明—中央ユーラシア半乾燥域の変遷」リーダー、中国環境問題研究拠点リーダーを務める。主な著書に「モノの越境と地球環境問題」(編著、2009年)など。

2



## 水との関わりをとりもどす：「うおの会」の活動を通じて

中島経夫  
(なかじま・つねお)

総合地球環境学研究所客員教授、琵琶湖博物館名誉学芸員。コイ科魚類の咽頭歯の研究から、魚と人の関わりがどのようにできあがってきたのかを研究してきた。また、現代における魚と人との関わり方や現状を知るために市民グループ「うおの会」を立ち上げ、その調査活動を支えてきた。

3



## 水は何をきれいにするのか?：怪異譚にみる水と心

高岡弘幸  
(たかおか・ひろゆき)

福岡大学人文学部教授(民俗学・文化人類学専攻)。2006年より、地球研プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」に参加し、北海道、北陸、北部九州で、中世から現代に至る妖怪・怪異伝承から、日本人の景観認識を研究。現在は、富山湾から三河湾までを縦断する「妖怪・怪異マップ」を作成中。

4



## 水の記憶とその表現

村松 伸  
(むらまつ・しん)

総合地球環境学研究所教授、東京大学生産技術研究所教授(兼務)。専門はアジア都市・建築・空間史、保存と再生、全球都市全史研究。文明とは人間が集まって住むことだと考え、地球研で都市の恩恵と不具合の双方から開発途上国のメガシティの問題を研究するプロジェクトを行っている。京都エコロジー空間論の研究も仲間や学生と展開中。世界各地で逆立ちします。

5



## インドネシアの水と民俗知

MEUTIA, Ami Aminah  
(ムティア アミ アミナ)

総合地球環境学研究所研究員。排水処理技術の研究により早稲田大学から工学博士号取得。インドネシアに帰国後、ヨシなどが生える人工・天然湿地を用いた排水処理システムを開発した。さらに、西スマトラのマニンジャウ湖において、2003年に同国最初の湖沼研究ステーションを設立する。現在、地球研でメガシティプロジェクトに参加し、琵琶湖と比較しながらジャカルタのため池やローカル・ノレッジを研究している。

● パネルディスカッション 窪田順平、中島経夫、高岡弘幸、村松 伸、MEUTIA, Ami Aminah

[司会] 内山純蔵



阿部健一  
(あべ・けんいち)

総合地球環境学研究所 研究推進戦略センター 教授。専門は政治生態学。

【申込方法】 はがき、FAX、E-mailにて、●郵便番号 ●住所 ●氏名 ●電話番号 ●参加人数を明記の上、下記「地球研フォーラム事務局」までお申し込み下さい。お寄せいただいた個人情報、地球研が開催する催しの案内に利用させていただきます。

【応募締切日】 6月20日(月) 定員(250名)に達した場合には、応募を締め切る場合があります。

【申込・お問い合わせ先】 〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4 総合地球環境学研究所 研究協力課 地球研フォーラム事務局  
電話 (075) 707-2492 FAX (075) 707-2510 E-mail forum@chikyu.ac.jp